

9

日本バプテスト連盟ホームレス支援特別委員会
ニュースレター

隣人に出会う旅

麦野達一
(伊集院教会)

日本バプテスト連盟は長年、少年少女の育成の柱に天城で開催される全国少年少女大会を置いてきた。全国の教会から送り出され、天城山荘に集い、賛美、祈り、聖書、メッセージ、そして交わりの密度の濃い4日間を過ごす。普段、教会の少年少女は自分一人だけ、という少年少女も多い中で、全国の信仰の友に出会える「大会」の果たしてきた役割は大きい。しかし天城で過ごす夢のような4日間と日常の教会生活との差があまりに大きい為に、大会は打ち上げ花火のようなものとどまってしまふ事が、真の意味で育成になっているのかという疑問が投げかけられた。そして2005年、初めての「隣人に出会う旅」が開催された。旅の参加者はそれぞれの旅先で、キリストの福音に懸命に生きるキリスト者に出会う。またそれぞれの旅先がもつ課題や歴史に触れ、そこに生活している人々に出会う。非常にインパクトの大きい「出会い」である。この旅の準備と運営に当たる青少年専門委員会は、旅先での出会いを通して、それぞれの少年少女が暮らす「身近な」場所にいる隣人に出会う力を付けて欲しいと願っていた。

2005年の沖縄の旅に参加した高校3年生は、大学進学後、学校近くの駅で見かけるホームレスらしき男性のことが気になった。以前だったら何も感じずに見過ぎていた存在である。しかし彼は沖縄の旅で沖縄が持つ戦争の爪痕、今も残る米軍基地、そして新たに軍用飛行場が建設されようとしている現実を目の当たりにし、沖縄の痛みを知った。そしてその痛みを無視出来なくなった。不思議なことに沖縄での出会いは、沖縄とは直接関係ないはずのホームレスの存在へと関心を移していくこととなる。今彼は、地元の日本キリスト



前回の隣人に出会う旅
弁当炊き出しのお手伝い

教団の教会が中心となって行っているパトロールに定期的に参加するようになった。

2007年の隣人に出会う旅では、北九州の旅も企画された。ホームレス問題特別委員会も多くの協力をし、旅に参加した14名の少年少女を迎えた。実施されたのは1月2日～6日。正月明け早々である。参加する方も、迎える方も慌ただしさの中での旅だっただろう。しかしこの日程になったのには目的があった。1月3日に開かれた追悼集会に参加する為である。そしてホームレスの人々が最もつらい時を過ごす、厳寒の北九州の冬を味わって欲しいという狙いもあった。参加者の感想を読むと、どの少年少女も「出会った」ことの喜びと、出会うことで得られた気づきを挙げていた。参加したほとんどの少年少女は、ほとんどの「フツの」人々と同じように「ホームレスとは怠け者で、働く意欲が無い、自業自得な人」というイメージを持っていた。しかし実際にホームレスの「〇〇さん」と出会い、言葉を交わし、そして微笑み合うことでその思い込みが間違いだったことに気づかされていくのである。出会いの持つ力を見せつけられる思いである。

今年は暑い夏の最中、8月13日(木)～17日(月)に北九州の旅が開かれる。今回もホームレス問題特別委員会は多くの協力をする。NHKテレビの効果があったのかなかったのか(?)既に定員(20名)一杯に近い参加者が与えられている。参加する少年少女の新たな「出会い」を心から祈りたい。

ホームレス支援教会一覧

当委員会が把握しているホームレス支援を定期的に行っている地区と教会、定期的に炊き出しなどに出かける支援者が所属している教会は以下の通りです。活動の問い合わせ教会のみ電話番号を記しました。当委員会が把握できていない情報、「ここでもやっているよ」「うちでもやっているの載せてほしい」という情報がありましたら、ぜひ、連盟事務局気付、ホームレス委員会あてご一報くだされば幸いです。尚、ここに記していない教会・伝道所以外にも、献金や物資献品などを通して支援活動をささえてくださっている教会・伝道所が多くあります。皆様の関心とお祈りを感謝いたします。

【市川地区】

日本バプテスト連盟市川八幡教会
047-332-5197

日本バプテスト連盟市川大野教会
日本バプテスト浦和キリスト教会

【相模地区】

日本バプテスト相模中央キリスト教会
046-274-3708

【岐阜地区】

岐阜バプテスト教会
058-265-0881

【京都地区】

日本バプテスト京都教会
075-231-1351

【平野地区】

平野バプテスト教会
06-6708-5852
日本バプテスト連盟シオンの丘教会

【兵庫地区】

日本バプテスト連盟浜甲子園教会
0798-41-5300
神戸バプテスト教会
神戸西バプテスト教会
神戸伊川キリスト教会

【香川地区】

日本バプテスト連盟恵キリスト教会
087-861-0523

【北九州地区】

日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会
093-651-6669

日本バプテスト小倉キリスト教会
南小倉バプテスト教会

日本バプテストシオン山教会

若松バプテスト教会

日本バプテスト枝光キリスト教会

【福岡地区】

日本バプテスト福岡基督教会
福岡西部バプテスト教会

092-323-5151

バプテスト東福岡教会

福岡国際キリスト教会

平尾バプテスト教会

長住バプテスト教会

日本バプテスト連盟宇美キリスト教会

【久留米地区】

日本バプテスト連盟鳥栖教会

日本バプテスト連盟久留米荒木教会
0942-27-0116

日本バプテスト連盟久留米教会

【沖縄地区】

日本バプテスト連盟那覇新都心教会
098-942-4775

もうお読みになりましたか？

「ホームレス支援に関するシンポジウム報告書2003年」(2003年9月発行)
「ホームレス支援に関するシンポジウム報告集2005年」(2005年6月発行)

残部僅少です。お入用の方は、連盟事務局内ホームレス支援特別委員会、または上記の支援教会にお問合せください。
一冊500円のカンパをお願いしています。



山谷フィールドワークに参加して①

左右田淑子
(八王子めじろ台教会)

「実態は恐慌であるところの金融危機が起り、世界的に契約社員、日雇い労働者が職を失い、またそれに伴い家を失う状況を私たちは目の当たりにしています。この現実の中で、教会は、信仰者は、何を見聞きし、何を祈り、何をしたらいいのでしょうか～」との案内文を目にし、ホームレス支援特別委員会フィールドワークに初めて参加しました。

1日目の開会礼拝の聖書箇所は、ルカによる福音書15章11～32節でした。有名な、父と二人の息子のたとえ話です。説教の中で、弟の旅先での様子を知らないはずの兄が、「弟は娼婦どもと一緒にだった」となぜ言えるのか、といった問いかけがされました。人はそれぞれの背景をもっているのに、私たちもそれを知ろうとしていないのではないかな。勝手に思いこんで読んでいる聖書箇所を、改めて読み直す視点を与えられた思いがしました。

ホームレス支援活動をしている方々の報告会では、その活動の厳しさも知らされました。活動は徒労に終わることも多く、のれんに腕押しと感ずることもあること、活動が休止や中止となっているグループもあることも伺いました。また、個人を越えた教会の業となることの難しさについても教えられました。

ですから、そのような中で活動を続けておられる方々に、尊敬の念を抱きます。と同時に、御心ならば私を用いてくださいと祈る勇気もない自分の姿を思い知らされ、途方に暮れます。

しかし、路上に追いやられた方々の只中に、また支援活動をしている方々の只中に、イエス様はおられるのだと感じました。講演の中で伺った、「私たちはどのような出来事を見て祝福なのか、感謝なのか」という問いを、まずは受けとめ続けていきたいと思ひます。

山谷フィールドワークに参加して②

松崎 準
(新卒牧師研修会参加者・現帯広教会)

先日、私は新卒牧師研修会に参加した際、ホームレス支援特別委員会との共同プログラムで山谷フィールドワークに参加させていただきました。東京の山谷という町を歩きながら様々なことを考えさせられました。そこには、多くのホームレスの人たちが集まり、一つの町ができていました。同じ日本にこんなところがあるのか、と驚かされました。それと同時に私はキリストの福音を知る一人の人間として、福音っていったいなんだろう？ キリスト教って何だろう？ 神様はこの山谷の町に本当におられるのだろうか？という問いが頭の中に浮かんできました。以前私は、ホームレスを支援することがキリスト教の伝道と結びつかなければ、全く意味がないと考えていました。しかし、山谷の町を歩き、ホームレスの人たちと出会い、彼らの状況を知ったとき、自分のこれまでの考え方がひっくり返された思いになりました。

私はホームレスの方に支援をした見返りとして、彼らが教会に繋がること、キリスト者になることを、何か条件のようなものとして持っていました。この条件がクリアできなかったら、支援をする意味が無いと思っていたのです。しかし、全くそうではないということに気がつかされました。もうすでに福音の恵みにあずかっている者の一人として、福音を知る者として、目の前にいるホームレスの方をどう考えたら良いのか、これまでのように無視をしていて良いのだろうか、という問いを突きつけられたような気がしました。

支援をした相手がどうであろうと、私たちは、神様から受けた恵みに押し出されて恵みのわざに生きるということが、神様から求められているのではないのでしょうか。

この度、このフィールドワークに参加させていただいたことを通して、最も大切なことに気がつかされました。そのことに心から感謝致します。

ホームレスの現状と支援のこれから

大谷心基(京都教会)

昨年の金融危機以降、「派遣切り」に象徴されるように、私たちの身近なところに明日の衣食住が保障されない人たちが生み出されています。そしてホームレス状態になる人が増えています。またこれまでと異なり20歳代から40歳代の若いホームレスが増えています。

すると、これまでの行政や市民団体による支援方法では対応できなくなることが起こっています。マスコミを賑わした「派遣村」では、生活保護による衣食住確保を推進し効果もありましたが、あれから半年以上が経過した今、その次の支援を考える必要に迫られています。

そのあたりを少しみなさんと分かち合いたいと思います。

なぜ生活保護による支援は行き詰るのか。それはまず第一に予算が足りず、また増やす余裕もないことがあります。法律を無視して生活保護を認めなかったケースが極めて少なくなったことは大きな成果ですが、このまま生活保護受給者が増えると今度は行政が破綻します。このはざ間からどう突破するのが課題です。

その突破口として、生活保護の考え方を変える必要があると考えます。これが第二のことですが、現在の生活保護は実質生存保護です。しかしこれからは、生の全領域を保護する本当の意味での生活保護を考える必要があります。すると、単に衣食住を提供するだけでなく、生が活きるための人間形成あるいは快復のための支援が必要となります。それは保護法のこれからと結びつけるならば、生活保護からスタートするものの、それから抜け出し自立するための支援体制となり、つまりは保護による破綻も回避できることになると考えます。

そして私は、この生の全領域支援は、もはや信仰の領域抜きは語ることができないと考えています。教会およびキリスト者の祈りと働きがますます欠かせません。

また現在はホームレス問題を単独で考えるのではなく、貧困支援全体の中で捉える必要があります。そこでホームレス支援の立場から注意せねばならないのは、貧困層の中で新

たな階層ができることです。元正規社員層、元契約社員層、ホームレス層というものです。格差社会の中で新たな格差を生まない運動は深い倫理性が問われます。

そしてここでも、信仰による倫理が具体的に力を持ちます。各教会でそのあたりも考えていきたいものです。

最後に当委員会の中心テーマとして繰り返し述べさせていただいている、ホームレス支援活動の基本であるハウスレス支援とホームレス支援について考えます。ここでいうホームレスとは「ホーム＝関係性」の「レス＝喪失」のことです。実はこれまでの生活保護による支援はハウスレス支援の側面が大きいわけですが、これからはそこに「ホーム」・「レス」支援が加わります。ハウスレス支援は、当事者には何が必要か？という支援です。「ホーム」・「レス」支援は、当事者には誰が必要か？という支援です。

するとキリスト教会が歴史を通して語ってきた共に生きるというテーマが、即、これからの支援に欠かせない「ホーム」・「レス」支援となることがわかります。

しかし同時に、主イエスはマタイ25章などで実はハウスレス支援をも信仰の事柄として語ります。だからキリスト教会はこれからハウスレス支援の現場になるための祈りと準備をもする必要があります。

主に従うゆえに、主に従いつつ、支援にかかわり続けることができますなら幸いです。

(参考資料：2009年2月4日厚生労働省ホームレス自立支援関係担当者打合せ資料)

＜冊子発行予定＞
日本バプテスト連盟ホームレス支援特別委員会編
発言集2001－2007講演・発題・説教ほか)
『「ホームレス」と教会』
(220頁 A5版 700円)

お問合せ・お申込は

日本バプテスト連盟
ホームレス支援特別委員会

TEL048(883)1091
FAX048(883)1092

